

「日本・国際マネジメント研究部会」の開催について

部会長 松本 芳男（日本大学）

日本マネジメント学会（旧称 日本経営教育学会）の会則には、学会の目的として次の3つが記載されています。

- 1 経営体の諸活動に関する実践的研究
- 2 日本的経営及び国際的経営の研究
- 3 経営者・管理者の実践能力を育成するための経営教育の研究

「日本・国際マネジメント研究部会」は2に記載されている「日本的経営及び国際的経営の研究」に対応する研究部会です。かつて日本では、1970年代から80年代にかけて「日本的経営ブーム」とも言うべき現象が見られました。戦後の廃墟から出発し世界が驚嘆するほどの経済成長を成し遂げた日本企業の経営が高く評価され、間宏、津田真澄、占部都美、岩田龍子などが論陣を張りました。しかし、90年代に入りバブル経済が破綻し、それに続く「失われた10年」と言われる景気低迷の中で、日本的経営に対する評価は極端に低下し、日本的経営の研究も下火になっていきました。

日本的経営のブームは去ったとはいえ、不可逆的に進行するグローバル・エコノミーの中で、比較経営や異文化経営の観点からの経営研究はむしろ一層重要性を増してきています。本研究部会は、経営のグローバル化の中で、共通化する部分と、各国の独自の特徴として残る部分は何か、多文化経営を融合したハイブリッド経営モデルはどのように形成されてゆくのかなどを明らかにしていく予定です。その際、経営モデルをアприオリに論ずるのではなく、当面、日本、中国、韓国の東アジア3国の企業の中から、高業績・高成長企業や、独特の経営モデル等をもつユニーク企業のケーススタディを積み重ね、そこからエクセレントカンパニーやユニーク企業の特徴などを析出する計画です。

第1回の研究会は、12月17日（土）10:30から12:00まで、文京学院大学（本郷キャンパス）で開催する予定です。報告者として次の2名を予定しています。

- (1) 劉慶紅（早稲田大学） 「中国進出日系企業の経営」
 - (2) 王 鵬（日本大学院生） 「ポストモダニティ的組織戦略—北大縦横のケースを中心に—」
- 多くの会員の皆さまのご出席をお待ちしております。連絡先は、次のとおりです。

部会長 松本芳男（matsumoto.yoshio@nihon-u.ac.jp）